

道博協ニュース

第30号

発行所 北海道博物館協会
事務所 札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第二十九回北海道博物館大会の概要

平成2年度の第二十九回北海道博物館大会については、江差町において開催すべく準備をすすめて参りましたが、先般、江差町教育委員会をはじめとした関係者のご協力により、その骨子がまとまりました。これらの概要は、去る三月十六日、札幌市において開かれた平成元年度第三回役員会において確定しましたのでお知らせいたします。

主催 北海道博物館協会

後援 北海道教育委員会
江差町

会場 江差町文化会館

043 江差町茂尻町71番地

大会テーマ 地域文化の継承と博物館

日程 7月11日(水)

①受付 (9:30~13:00)

②開会式・総会 (9:30~11:40)

③特別報告 (11:40~13:00)

④記念撮影・昼食 (11:40~13:00)

⑤特別講演 (13:10~14:30)

⑥シンポジウム (14:30~17:00)

⑦学芸職員部会 (17:10~17:45)

⑧懇親会 (18:00~20:00)

①閉会式 (9:30~13:00)

②施設・史跡見学 (9:30~13:30)

浪家、追分会館、中村家、開陽丸遺物処理場、関川家、開陽丸記念館等

大会参加料 全員二五〇〇円、非会員三〇〇〇円

①閉会式 (9:30~13:00)

②施設・史跡見学 (9:30~13:30)

浪家、追分会館、中村家、開陽丸遺物処理場、関川家、開陽丸記念館等

大会参加料 全員二五〇〇円、非会員三〇〇〇円

なお、会場の江差町文化会館は本年5月オープン予定のほか、「開陽丸」も今春公開の新しい施設です。開催地の詳細につきましては次号に下期待下さい。



道博協第三回役員会報告

平成元年度第三回役員会は去る3月16日、札幌市スノー会館で開催されました。渡邊会長挨拶のあと、議長に近間副会長が選ばれ以下のとおり進行しました。はじめに、第二回役員会以降の一般経過報告、次いで、①平成元年度事業報告及び会計収支報告(見込み)、②平成2年度事業計画及び会計収支予算(案)、

③第29回北海道博物館大会(江差)について、④第30回北海道博物館大会開催地について、そのほか、前回の役員会からの継続案件となっていた(1)地区協議会への補助、と(2)顕彰についての討議をおこないました。

このうち、江差大会については、上記のような内容で審議されました。また、第30回大会は、記念大会ともなることから、会員の皆さんが参集し易い道央圏の方向で検討された結果、苫小牧市に内定しました。継続事項のうち、地区協議会への補助については、さらに加入館園の増加をはかるなど組織を強化してから再検討すること、また、顕彰に關しては、第30回大会に向けて、新年度をその準備にあてることになりました。

このあと、北海道開拓記念館からの依頼事項として、安藤副館長より、平成2年度から予定されている「博物館施設ネットワークづくり事業」についての概要説明がなされ、会議は終了しました。

平成元年度 網走管内博物館連絡協議会の研修会報告

昭和63年に発足した網博協には16市町22施設が加盟しているが、研修会はこれら施設の他に関係機関を含めた職員を対象に開催している。

この研修会の一つの目的には、道博協が開催する研修会等との重複を避けながら、この地域に関する身近な問題、あるいはトピックス的要素のあるものをテーマとして、相互理解や情報交流を十分行なえるように配慮しています。

平成元年度の研修会は元年11月10・11日の2日間に亘り、北見市の北網圏北見文化センターで開催しましたが、講演として、平成2年度オープンが予定されている(仮称)北海道立網走北方民族博物館、あるいはNHK番組の「北方圏」シリーズの中で、とりわけこの地方と深い関係を有する北方民族のユカギールを取材した映像を活用し、これに

もとづいた「シベリアの諸民族」―その民族誌と研究展望―について北海道大学文学部の菊地俊彦助教授にお願いした。また、「樺太考古学調査の現状と課題」―北海道との

かかわりについて―と題して北海道開拓記念館の野村崇調査収集課長から、現地での発掘調査に参加した体験と豊富なスライドを使用した講演をいただいた。

情報交流では「各博物館等における活動状況について」と題して、近年多くなってきた埋蔵文化財の緊急発掘調査に係わるいくつかの問題提起がなされた。これ等の点については道内的にも問題が生じてくるものと考えられるので触れておくことにしたい。埋蔵文化財発掘調査費の中で調査員等の共済費について国の補助金算定基準から除外されている。この点は埋文保

護サイドとして当然に対応すべき意味を含んでいるものと考えられる。むしろ緊急発掘を要する行政調査の中ではこのうした必要経費は見込まれていないのです。また、発掘調査に従事する作業員等の事故対策について、近年、調査時の事故が増加の傾向にあります

が、各地の労働基準監督署で、労災手続をするため、担当課の職員が問い合わせ、あるいは協議すると、埋蔵文化財発掘調査従事職員は労災適用除外対象の職種として取扱われるケースが生じてきていることを事例として話し合われました。

最後に「4週6休制度」の導入についての情報交換がなされたが、国の方針としてこの制度の施行にあたっては博物館・美術館等のこの種の施設、機関については対象から除外するとなつてはいるが、そこに勤務する職員の勤務体制の方向は何も示されないままになつている。このことは間もなく都道府県、市町村に波及してくることであり、どのように対応するか今後也十分に配慮して行くことで共通認識し、2日間の有意義な研修会を終了しました。(事務局)

現在労災適用外のところ、町村の場合は「北海道町村非常勤職員公務災害補償組合」に加入し、直接町村の負担とならぬよう配慮されているようですが、全町村の加入とな

っているかどうか確認が必要となつてきます。また、市の段階ではこの種の互助制度が未発足であることから、各市の条例・規則に準じての補償となり、多大な財政負担を強いられているところも報告されている。

平成二年度の「館園の主な行事案内」について
新年度の各館園の普及、展示事業などがまとまりましたお知らせ下さい。ニュース等で、ご紹介する予定です



小樽市博物館第二展示室
二月二十二日にオープン
かねて準備をすすめていた小樽市博物館第二展示室の開館式が標記の一時半より行われ、当協会から渡邊会長、野村事務局長が出席した。
開館式は、新谷昌明小樽市長の式辞など述べられ、テープカットのあと館内観覧が行われた。新展示室は、「森の四季」などの「自然史」と「大昔、ヒトと生活」の忍路土場遺跡を中心とした「考古」テーマから成りQ&Aなど各所に趣好がこらされている。

OA機器の利用③ 美幌農業館・博物館活動におけるパソコン利用

中 江 拓 司

1 事務分野における利用

OA分野に関するコンピュータの活用場面は来館者集計や予算管理、図書管理、事業案内文書のラベル印刷、事業報告書の作成、気象データの集計・統計分析などに、ファクシミリは事務連絡と事業用とに兼用されている。

2 展示における利用

展示の中でのパソコンは、両館あわせ5セツトがあり、

表-1 展示におけるパソコンの用途

名称・テーマ	目的	ハード・ソフト
「土をたがやす」 博物館「田と開拓」	プラウの形・種類の違いによる耕起の効果を理解させる。	ハード：16ビットパソコン等 ソフト：NAPLPS(北米標準方式)のビデオグラフィックス画像を表示する
「町の移り変わり」 博物館「田の変化と町の発展」	明治から現代までの美幌町市街、および郊外の土地利用の変遷理解させる。	ハード：16ビットパソコン等 ソフト：市街地図、郊外地図などベースとなる画像はビットイメージ画像で表現し、道路、河川等は、NAPLPS画像をオーバーレイさせる
農業館「畑の作物学」 「ジグソーパズル」	美幌の農作物等に関する3コース5問のQ&Aに答えたり、画面上で牛の部位をパズルとしたジグソーパズルを組立てる操作を通して「農」に関する知識を深めてもらう。	ハード：16ビットパソコン等 ソフト：問、と答えをあわせて15組のビットイメージ画像および表示ソフト。
農業館「基地未来農業」	「耕起」または「収穫」を指示すると、ロボットが気象情報を分析、栽培管理作業を行うという話にまじってあり、来館者が参加し、「未来の農業」を考えていく。	ソフト：レーザーディスク、ロボット駆動部分、調光センサー、8ビットパソコン ソフト：ハードの制御用ソフト

画像情報をインタラクティブに来館者に伝えるツールとして用いている。その個別用途は、表-1に示す。パソコンとCRTを利用した展示は、解説パネルなどのメディアと異なり、来館者の能動的な操作を要するように作られ、来館者の参加を促すことにより、解説への誘引力を増すことができるという効果がある。特に子供達には受け入れられ易い

ようである。しかしながら、とによって、来館者と展示を展示する側が用意した解説や画像を順繰りに画面出力しているだけでは、解説パネルを別のメディアに置き換えたにすぎない。展示におけるパソコン利用で、その価値が認められるのは、シミュレーションおよび双方向性の創出にある、と思われる。たとえば、「耕起」の効果を理解するために展示する側が用意したパターンを表示させるだけではなく、操作者が自ら「設計」したプランを用い土壌にその刃をたて、土の動きをシミュレート

3 パソコン通信ネットワークの利用

1989年5月からパソコン通信ネットワークセンターの運営を行っているが、90年2月現在、周辺地域を中心にして120名がネットに参加している。ここでいうパソコン通信とは、ワープロやパソコンの文字や画像データをセンターとなるコンピュータに電話回線経由で蓄え、いつでもどこでも呼出しあるいは書き込み可能な状態で双方向通信を行うことである。システム概要を図-1に示す。

(1) 目的

来館者へのメッセージであるとして、それに対して来館者がレスポンスを返したいという要求を満たす必要があると思う。たとえば、来館者が用意された「問」に対する「答」を選ぶことから、一歩進んで、来館者自身が「Q&A」を作るといふ操作を可能にする仕組みを作っておくこ

(2) 内容

表-2に情報メニューを示したが、「気象情報」は、パソコン利用農業者の栽培管理作業の効果的な意志決定支援情報となっている。また美幌農業館の機能である「農業ライブラリ」をイメージした農業情報データベースや農業館・博物館の展示資料をオンライン画像で解説した「農業館・博物館講座」(図-2)がある。双方向的な活用の事例として、「仔キツネの調査にあたって「仔キツネの巣穴を見かけたら教えて……」という館側からの呼びかけに対して、「キツネ発見！」の情報が寄

ソク利用農業者の栽培管理作業の効果的な意志決定支援情報となっている。また美幌農業館の機能である「農業ライブラリ」をイメージした農業情報データベースや農業館・博物館の展示資料をオンライン画像で解説した「農業館・博物館講座」(図-2)がある。双方向的な活用の事例として、「仔キツネの調査にあたって「仔キツネの巣穴を見かけたら教えて……」という館側からの呼びかけに対して、「キツネ発見！」の情報が寄



図-1 ネットワーク概要図

せられたり、メンバーである主婦が中心となって、よな板からの情報(家庭料理のメモ)をまとめた「クッキング・ボード」ができるなど、コミュニケーションツールとしてもさかんに活用がされている。なおこのネットワークは「ビボットネット」と呼ばれているが、この名は農業館のイメージキャラクターである「農業メカロボット」の愛称でもある。

4 おわりに

パソコンハードの高機能、低廉化は著しく、導入にあたってはソフトウェアが課題となる。展示で使えるソフトが少なく、制作すると時間を要し、委託すると高価である。この点に関してパソコンを展示に採用している博物館が、使用するソフトウェアのモジュールやデータをライブラリ化し各館で共有可能なものとする必要があると思われる。もっとも「人」と「金」がなるといって「普遍的」な課題の解決策になるはずがないが、少なくとも「情報」はブルー

しておきたい。パソコン通信については、電話線があれば時間や距離を超えて情報を得られ、しかもマスメディアにはない完全な双方向性と情報の主体的な選択の余地があるという長所が認められつつあり、ユーザーは着実に増加している。ビボットネットでは、対外的な情報提供とコミュニケーション利用が主体であるが、別の側面での活用可能性も持っている。地方の博物館は少ない専門職員配置の現状の中でも、多彩な活動を展開する必要があるが、これらを支えていくための、他館との情報交換による知識の交流、各種の教育普及活動事例情報の交換の場としてのパソコン通信ネットワークの利用である。博物館資料のデータベイス化が資料所在情報の一元化という意味を持つものであるとしたら、これは知識、経験の共有化ということの意味する。グローバルな感性を持つて、ローカルな博物館をネットワークする「ミュージアムネットワーク」の出現に期待したい。

表-2 「BIBOT-NET」の情報メニュー

(1) お知らせ	(1) BIBOT-NET インフォメーション	(8) 農業気象データベース
(2) フォーラム	(2) 農業館・博物館ご案内	(9) 農業と気象の豆知識
(3) 電子メール	(3) イベント情報	(5) 農業ライブラリ
(4) 気象情報	(4) 美幌峠牧場日より	(0) 農業トピックス
	(5) ゲストの方へ	(1) 流通/消費/価格
	(6) システムの使い方	(2) 品種/栽培/病害虫
	(7) 会員プロフィール	(3) 統計/農政/他産業
		(4) 「食」の情報
		月刊誌タイトル
		(6) 図書資料ライブラリー
		(7) ビデオライブラリー
		(8) NAP 画像農業情報
		(6) 電子掲示板
		(0) みんなのパソコン講座
		(1) 農業館・博物館講座
		(2) まちづくりふらわらむ
		(3) Graphicwork
		(4) フォーラムレビュー
		(7) ツール
		(1) コーナー案内
		(2) プログラム
		(3) 表計算フォーム
		(4) NONKTERM関係
		(8) CUG
		(9) 電子会議室

情報内容例 (タイトルのみ)

『お知らせ』掲載例 (タイトル)		
35	特別展「流水一その謎と人々の生活」(11)	OP3
34	一步園自然セミナー実施要項 (42)	OP2
33	北方民族文化シンポジウム (21)	BIBOT
32	第2回パソコン通信大会 (4)	BIBOT
14	博物館冬季作品展 (14)	OP3
13	第3回美幌博物館自然講座実施要領 (44)	OP3
12	講演会「サケの一生」 (19)	BIBOT
『フォーラム』掲載例 (タイトル)		
……会員間の情報交換が行われている……		
1274	肉牛婦人の研修に行ってきました (28)	マドンナ
1273	家紋の世界▷五三桐の画像を掲載 (11)	BIBOT
	GPAPAの「釣り阿呆日記」(73)	GPAPA
1269	子育て▷お風呂であせった。(19)	[ボブラ]
……キツネの調査も話題に……		
359	発信キツネの調査は……(1)	BIBOT
354	RES 353▷発信キツネの生態調査 (10)	[ボブラ]
353	発信キツネ▷キツネの生態調査 (27)	BIBOT
351	RES 349▷発信キツネの行く末? (9)	[ボブラ]
349	発信キツネ▷情報ありがとう! (3)	OP1
347	発信キツネ▷美富で発見! (10)	[ボブラ]
210	キツネ▷巣穴有り? (3)	[ボブラ]
208	仔キツネを見つけたら教えて! (4)	BIBOT
……気象情報に対するレスポンス……		
405	じゅまな雨でした (14)	マスコトモコ
303	すごい雨…… (10)	Yoshi
294	いい雨でした!! (9)	[ボブラ]
291	昨日の雨、町内でもこんなに違う (3)	BIBOT
『農業館・博物館講座』の掲載例 (タイトル)		
……NAPLPS 画像による展示解説……		
53	博物館講座▷押型土器 (61)	BIBOT
52	農業館案内▷畑の作物学・馬鈴薯① (169)	OP3
39	博物館講座▷オスジカの角の成長 (69)	OP1
26	土を耕す▷コンビネーションハロー (28)	OP1
1	NAP▷博物館の活動(49)	OP1
11	グラフ▷美幌町作物10アール収量A (29)	OP1
7	ラニニニヤとエルニニニ現象 (40)	OP3



図-2 展示資料の解説 (NAPLPS画像)

館 園 紹 介

ヴェネツィア美術館

ヴェネツィア美術館は小樽市に昭和63年12月に開館しました。小樽とイタリアの古都ヴェネツィアはガラス工芸が盛んなこと、海に開かれた商業都市であること、運河のある街として有名なことなど多くの共通点をもっています。当館はヴェネツィアの豊かな文化、生活様式を主にガラス工芸を通して紹介するという構想のもとに活動を行っています。



建物の外観は18世紀にヴェネツィアに建てられたバラッ

ツォ(宮殿)・グラッシイがモデルです。ゴシック、バロックなどあらゆる建築様式が集約された典型的なヴェネツィアン・スタイルの建築物で、ヴェネツィアで文化が集積されてきたことがわかります。

当館は5階建てで2階3階が美術館となっており、ヴェネツィアの主にガラス工芸品の収集及び展示の充実を図っています。ヴェネツィアは15世紀から17世紀にかけてヨーロッパのガラス市場を独占した歴史があり、ガラス工芸において非常に高い技術をもっています。伝統的な作品から創造的で新しい感覚の作品まで幅広いヴェネツィアン・ガラスを収集、展示しています。

常設展はそれぞれ内装の異なる10の展示室にわかれており、彫像作品の部屋、ヴェネツィアン・ミラーの部屋などテーマ毎に作品を展示しています。各展示室にはガラスの他に18世紀の家具なども合わせて展示しています。また2階フロアにはイギリスのチャールズ皇太子ご夫妻がヴェネ

ツィアで実際にお乗りになられた豪華なゴンドラがあり、栄華を極めたヴェネツィアの貴族達の生活をしのぶことができます。

当館で収蔵している古いデザイン作品はオリジナルではなく(オリジナルはヴェネツィア、ムラノ・ガラス美術館に収蔵されているものが多し)、ほとんどが現代のガラス職人によって復元されたものです。これはガラス工芸の技術が数百年間途絶えることなく脈々と続いていることを示しています。現在のヴェネツィアン・ガラス界は技術が高レベルで保たれ、さらにデザイン面で新しいものへの挑戦が続いている状態です。

このダイナミックな挑戦、動きもまた当館では紹介しています。常設展の他に年に2〜3回特別展も開催しています。これはヴェネツィアン・ガラスを様々なテーマによって紹介するもので、今年は4月以降2回予定しています。4月16日〜5月31日には現代ヴェネ

ツィアン・ガラス界の巨匠、アルフレッド・バルビーニの作品展を行うことになっています。

ヴェネツィア美術館では2階3階の美術館のみならず、1階にあるガラスショップ、3階喫茶室、5階ヴェネツィア料理レストランを含めた全館において、ヴェネツィアの豊かな文化、生活様式を紹介すべく努力しています。

所在地 047小樽市堺町5-1-27
電話番号 011-341-3331
一七二七
開館時間 冬期 午前10時〜午後6時
夏期 午前10時〜午後7時
休館 年中無休
(元旦のみ休館)
常設展入館料 一般五百円、中・高校生四百円、小学生三百円(消費税別)
(ヴェネツィア美術館 広報担当 佐藤 誠)

館 園 紹 介

滝川市美術自然史館

美術自然史館は美術館と自然史博物館を合体させたユニークな博物館です。

開館は1986年9月、建設場所は滝川市の文化ゾーンの中にあり、近くに図書館、文化センター、航空科学館、郷土館などの施設があります。

「美術+自然史館」という珍しい名称となったのは、太古から現代に至る人類の進化史の中に美術を位置づけてしまおうという滝川市独自の発想によるもので、科学と芸術の融合をめざしています。それでは、館について順を追って紹介します。



化石の森

前庭にあるのが化石の森です。メタセコイアやイチヨウなどの「生きた化石」や、ホロクラ層から産出するタカハシホタテやカイギユウのモニユメントなどを配置しています。また、ロビーには500万年前の滝川を描いた石造レリーフを掲げ、カイギユウが生息していた頃を再現しています。(たて3m、よこ7m)

自然史部門

1980年に空知川で発見されたタキカワカイギユウの骨格標本を中心にヨルダニカイギユウやステラーカイギユウ、さらにデスマスチルスや現生するアメリカマナティなど海牛の進化に関する展示をしています。

また、生物の進化をあらわす部門では、地球の誕生から生命の発生までを描いたタイムトンネルや、シーラカンスや始祖鳥をはじめ、ティラノサウルス、マンモス、オオツノジカなど世界中のさまざまな化石標本のレプリカを所狭しと並べています。

中2階には人類進化のコーナーがあり、化石人類からクロマニヨン人までの成体模

型などの資料を並べています。

美術部門

滝川市にゆかり深い次の3人の作家の個室があります。日本画の岩橋英遠は、本市出身で現在も日本美術院の重鎮として活躍され、1989年度に文化功労者を受賞しました。油彩の一本万寿三は本市出身

で北海道の洋画界の発展に寄与し、全道展の創立にも参画した画家です。本市にゆかり深い書家・上田桑鳩は前衛書道を今日の地位に確立した功

労者で、芸術としての書を探究し続けました。

このほか特別展用に約400平方メートルの企画展示室があります。本年は滝川の自然展や岩橋英遠展、化石展などを開催します。

所在地 滝川市新町2丁目

5番30号

電話番号 〇二五二二二二

〇五〇二

開館時間 水・月九時～十八時

(冬期は十時～十七時)

休館日 火曜日・年末年始

入館料 一般五百十五円、

高校生 三百九円、中学生

三百六円、小学生 百〇三

円

(滝川市美術自然史館)

学芸員 河野 敏昭

館園紹介

海のふるさと館

平成元年六月十日にオープンしたこの施設は、北海道百選にも選ばれた留萌一の景勝地「黄金岬」の高台に聳えています。外観はチョット落着いた建物で「あの建物はなんだ

ろう?」と思わせる効果を發揮しています。

一階は資料館となっており、常設展示室、特別展示室、体験学習室、研究室、作業室、収蔵庫などの諸室があります。二階には、日本海の一八〇度のパノラマを鑑賞することのできる展望ラウンジを中心に会議室、体験実習室等があります。地下には機械室、収蔵庫があります。

常設展示室では「海と人々」を展示テーマに留萌の人々の過去から現在、そして未来へと続く海との関わりを次の六つの「展示コーナー」にわたって展示しています。

- 一、地球と日本海の誕生
- 二、留萌の土台の形成と日本海の生いたち、気候、地下資源、地質などを展示しています。
- 三、海の狩人・海の商人
- 四、大昔から近世にかけて、留萌に住んでいた人たちがどのように海とつきあってきたか。
- 五、日本海が北と南の文化や人を運んできた様子を展示しています。
- 六、映像展示

「海に燃えて」留萌港物語」留萌港の誕生から未来の留萌の将来構想までを縦糸とし、四季折々の留萌の姿を横糸に織りこみながら展開する十三分のマルチスライドを使った映像展示です。

近代の浜の隆盛を築いた鱈

漁と現在の水産加工都市留萌の姿を重ねあわせて展示しています。船大工の道具が中心です。

海と調和する街作りを目指

す留萌の将来構想を地形模型によって展示しています。





六、海の生き物たち

留萌近海の海鳥、海獣等の剥製を生きているそのままに展示しています。

また、展望ラウンジにはポイント・ビジョンという機械により日本海オロロンラインの諸観光地を紹介すると共に、日本海の水平線の向こうに何かあるかを子供たちに知ってもらうことが出来ます。

特別展示室ではテーマと期間を定めた展示を行っており、平成元年度には特別展一回、企画展を三回実施しました。その他事業としては次のようなものを実施しています。

- 一、ふるさと学習(年七回)
- 二、自然観察会(年五回)
- 三、海のふるさと館だよりの発行
- 四、海のふるさと館紀要の発行

開館したての館ですので、市民とのコミュニケーションを密にして、市民の学習の場、憩いの場として地域に溶け込んでいきたいものです。

館園の主な行事案内(4月〜6月)

- 所在地 077留萌市大町2丁目
電話番号 ○一六四四一三一
六六七七
開館時間 水〜月 十時〜十七時
休館日 火曜日・年末年始、五月三日、十一月三日除く祝日
展示室観覧料 一般三百円、高校生二百円、小中学百円、団体各二百、百、五十円。
(留萌市海のふるさと館 学芸係 主事 福土廣志)
- 札幌市青少年科学館 4・4〜8、5・16〜20、6・16
 - 札幌市天文台夜間公開、5・27、6・22 24初心者のための「星空セミナー」、6・3 日曜実験室他
 - 札幌芸術の森 4・29〜6・3
 - 企画展「米坂ビデノリ展」、4・29〜7・1 同「リビングデザイン展」
 - 札幌市豊平川さけ科学館 4・28、5・5 サケ稚魚の放流、3・1〜8・1「稚魚展」(季節展)
 - 道立函館美術館 4・7〜5・13 特別展「三箇三郎、瀬戸英樹、大村調丈三人展」、5・20〜6・24 同「フランス・ロココ展」
 - 市立函館博物館 5・12 市民講座「外国人が歩いた先史の遺跡」、5・19 同「津軽海峡と旧石器時代」、5・12 科学教室「天体シリーズ 春の星座物語」、13 同「函館山の植物観察」
 - 小樽市博物館 4・29 巡検「大地の生い立ち」、5・27 講座「春の植物野外観察会」、6・2 見学会「近郊博物館を訪ねて」
 - 美唄市郷土史料館 特別展「樺戸道路の開削と囚人労役」、4・28〜6・28「上川道路・士別市立博物館 5・12〜27 特別展「我が家の博物館」、4・22 野鳥観察会、北海道立旭川美術館 4・3〜5・13「所蔵名品展」伝統の美 木と陶、5・19〜6・24「ヨーロッパ版画名品展」、6・30〜8・12「竹久夢二展」
 - 国際染織美術館 4・1〜11・30 企画展「アイヌの衣裳展」
 - 苫前町郷土資料館 5・1 考古資料館オープン
 - 網走市立美術館 5・26〜6・10 特別展「歌川広重東海道五十三次展」、6月中旬 移動展「北海道書道展」
 - 北網走北見文化センター 3・29〜4・8 特別展「二科会北海道支部写真展」、4・16〜29 同「科学技術週間事業」、6・5〜14 同「屯田肖像画展」、
 - 札幌市博物館 4・上旬〜5・27 講座「春の植物野外観察会」、6・2 見学会「近郊博物館を訪ねて」

●札幌市円山動物園

4・29〜5・6 90円山動物園春まつり、5・13 第27回動物写真会、5・13、20、27

探鳥会

●札幌市資料館

4・3〜6・10

10 児童文学「新十津川物語」展、6・19〜7・22 「ニュースきょうど・カムイミントラ展」

●北海道開拓記念館

4・6 4・22 テーマ展「掘り出された北の歴史」、5・1〜7・29 特別展「北に生きた会津武士と農民」福島県と北海道、5・18 講演会「サハ

道立三岸好太郎美術館

6・1〜7・22 特別展「パウハウスへの想い」、4・28、5・26、美術館ミニ・コンサ

ート

ト

5・中旬、6・下旬 同「寄贈資料展」

●苦小牧市博物館 5・12、3・16 講演会「平成2年度博物館大学講座」、5・20、市民探鳥会、6・3、30「平成元年度新着寄贈資料展」

●室蘭市青少年科学館 4・1、30、市内小学校新入児童無料招待、4・16、22、科学技術週間協賛行事、科学映画を見る会他

●室蘭市民俗資料館 5・1、6・30、特別展「クラシックカメラ展」

●帯広百年記念館 5・13、愛鳥週間行事講演会、視察会

6・24、エゾリス視察会

●幕別町ふるさと館 4・1、ジュニアスタッフ学習会、5・6、バード・ウォッチング、5・13、ふれ合い大農園開き

●厚岸町郷土館 6・1、見学会「自然と歴史を訪ねて湿原川下りと探鳥会」、同「大黒島海鳥繁殖地を訪ねて」

●標津町ボー川史跡自然公園 4・1、視察会「福寿草を見る会」、5・1、サケ稚魚放流

●釧路市立博物館 3・11、4・15 収蔵資料展、4・29、5・27 甲冑展、6・17、7・15 釧路空襲展

●釧路市青少年科学館 5・下旬、11・1 小中学校実習、4・1、3・1 天体観望会、同 移動天文台

●斜里町立知床博物館 4・20、25 オースチン彗星観測会、5・13 遺跡発掘見学会、5・20 ひぐま視察会、5・22、26 春の星座を見る集い、5・30、6・6、13、27 生きたい大学専門課程、4

館園動向

◆羽幌町郷土資料館開館

同館は、昨年5月、市街地の南町に開館した。一階は事務室をはさんで左手に①の南町に開館した。一階は事務室をはさんで左手に①羽幌のあけほの、②生活の歴史、右手には③開拓の歴史（農業、漁業）と④商工業関係、及び明治26年、佐渡から移住し、酒造業を営んだ本間家資料コーナー。二階は、町内から産出したアンモナイトなどを展示した⑥羽幌の化石となつてゐる。

事務局長派遣

10・12 道教委へ第29回北海道博物館大会補助金交付申請書送付

10・12 平成元年度日博協顕彰結果を館園宛通知

11・6 末館入館園加入推進運動（12月25日まで）

11・10、11 網走管内博物館連絡協議会研修会開催、事務局局長派遣

11・29 第28回道博協大会報告書送付

12・20 道博協ニュース第29号刊行、送付

1・23 オホーツク国際流水ロード事業「北方民族文化シンポジウム」共催承諾

2・15 平成2年度館園の普及及び展示事業調査書送付

2・22 小樽市博物館第2展示室開会式、会長、事務局長出席

2・28、1 道博協第29回江差大会現地地合わせ

3・15 第3回役員会（札幌・スノー会館）

3・31 道博協ニュース第30号刊行

事務局日誌

寄贈図書

10・12 道教委へ第29回北海道博物館大会補助金交付申請書送付

10・12 平成元年度日博協顕彰結果を館園宛通知

11・6 末館入館園加入推進運動（12月25日まで）

11・10、11 網走管内博物館連絡協議会研修会開催、事務局局長派遣

11・29 第28回道博協大会報告書送付

12・20 道博協ニュース第29号刊行、送付

1・23 オホーツク国際流水ロード事業「北方民族文化シンポジウム」共催承諾

2・15 平成2年度館園の普及及び展示事業調査書送付

2・22 小樽市博物館第2展示室開会式、会長、事務局長出席

2・28、1 道博協第29回江差大会現地地合わせ

3・15 第3回役員会（札幌・スノー会館）

3・31 道博協ニュース第30号刊行

◆苦小牧市博物館所蔵資料目録3、音盤資料目録（元・3）

同館年報 Vol.4（元・3）

美唄市郷土史料館紀要八八年度（元・3）

◆名寄市郷土資料報告第4集（元・3）

◆名寄叢書第7巻、名寄の碑、同第8巻、北の薬用植物、市立名寄図書館、◆上士幌町ひがし大雪博物館研究報告第11号（元・3）

◆層雲峡博物館研究報告第9号（元・3）

◆知床博物館研究報告第9集、同10集（元・3）

10年のあゆみ（63・12）

博物館のひろば No.34、39

◆美幌博物館収蔵目録第1集（元・3）

美幌農業館・博物館報（元・3）

同第2回特別展日本の昆虫展解説書（元・7）

◆尻尻町立博物館年報第8集（元・3）

◆「五稜郭からのメッセージ」市立函館博物館特展目録（元・7）

◆一九九〇天文トピック

ス、釧路市青少年科学館（2・1）

◆アイヌ民族博物館だより、No.19（2・1）

◆神奈川県川島博物館協会通信ネット・

新入会員

（個人会員）千代川謙一（藤田光一）

「道博協ニュース」刊行のあゆみ

協会ニュースは、本号で30号になりました。これまでの経過をみますと、昭和48年3月にA3版、2頁でスタートしてから、翌49年から59年までは、年間1、2号、B5版の2、6頁でした。その後、会員数も増加したことなどもあり、60・61年度は館園紹介を中心8、10頁となり、さらに62年度以降は、年間4回、8頁を目標とした編集方針で現在に至っております。なお、18号以降につきましては、余部が若干ございますのでご希望の会員はお知らせ下さい。（切手百二十円共）

ワーク、第2号（元・7）

◆加盟館・園職員録・愛知県博協（元・10）

◆季刊ミュージアム・データ12月号総合研究所